

都市再生整備計画(第3回変更)

ひじりこうげんえきしゅうへんちく
聖高原駅周辺地区

ながのけん おみむら
長野県 麻績村

平成23年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	ながのけん 長野県	市町村名	おみむら 麻績村	地区名	ひしりこうげんえきしゅうへんちく 聖高原駅周辺地区	面積	17.7 ha
計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 24 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 平成 24 年度				

目標 「地域交流と都市住民との交流、世代間交流の場の整備」 ①地域住民、都市住民の交流の場の提供 【地域交流センター】 ②世代間交流の場の提供 【既存交流施設跡地利用、麻績川周辺利用】 ③麻績村の玄関口で観光情報の発信 【聖高原駅の案内板整備】

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <ul style="list-style-type: none"> ・昭和31年の合併によって麻績村が成立した当時は人口が5,000人を超えていたが、減少傾向をたどり、現在は3,200人となっている。 ・高齢人口の比率は34.9%であり、基幹産業である農業就業人口も高齢者の占める割合は高い。 ・基幹産業である農業は、「食の安全」をセールスポイントとした生産品を目指し、有機質肥料による土壌改良に対する取り組みに着手している。 ・村内に長野自動車道麻績インターチェンジとJR聖高原駅を擁し、アクセシビリティが高い。 ・歴史的資源・自然的環境資源が豊富で、「親しみやすい日本一小さなスキー場やジェット機を展示する博物館を始めとするレクリエーション、文化施設が集積する聖高原エリア」、「麻績宿の風情が残る駅周辺エリア」、「北アルプスを遠望し美しい庭園ともてなしのこころを大切に作る公営宿泊施設「シェンガルテンおみ」があるふるさと体験エリア」などの主に3つの拠点を整備し、観光にも力を注いだまちづくりを行ってきた。 ・観光産業については、抜本的な見直しを図るために、検討委員会などを通じて、これからの観光のあり方について話し合いが行われている。 ・住民が主体となった村づくり会議が村の活動に積極的となっている。 ・第5次麻績村振興計画・実施計画が策定され、本事業は位置づけられている。
--

課題 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、人口流出への対応 ・基幹産業である農業生産物へのてこ入れ【品質向上とブランド化】 ・観光レクリエーション拠点の集客の減少傾向に対する対応 ・村民活動と村づくり整備との一体化

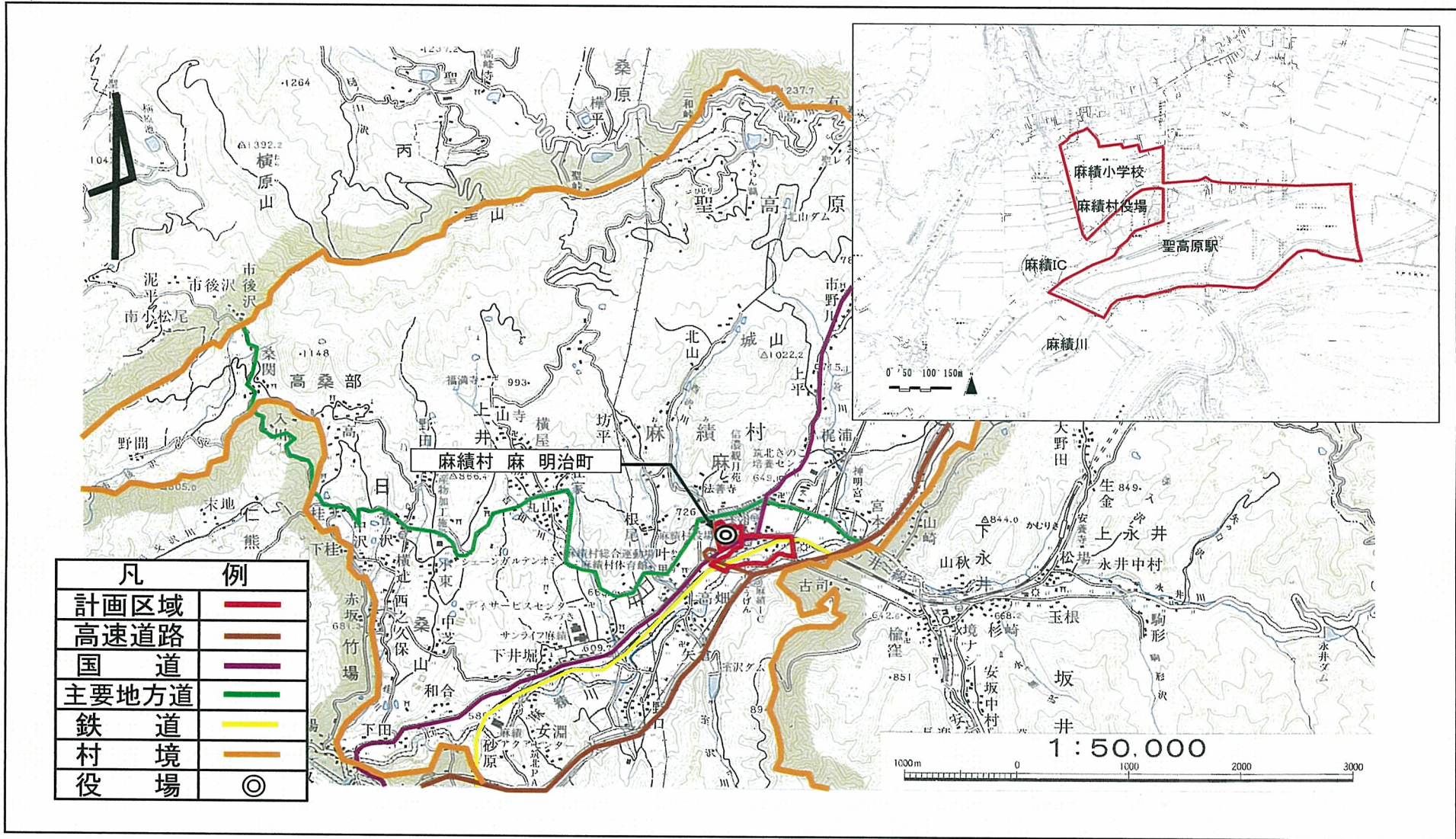
将来ビジョン(中長期) <ul style="list-style-type: none"> ・「第五次麻績村振興計画」では歴史的風土の価値やこれまで整備してきた文化施設等の価値を村民の貴重な財産とし、これを有効に活用して自立した村づくりを目指している。 ・村民が心身の健康を増進させ、生活そのものを楽しめる村にしていく。(高齢者の健康生活の持続とまちづくりへの貢献) ・住民参加の村づくりの過程で村民の共通認識を高め、活動し、次世代を担う青少年につないで、村の持続的な発展を目指す。 ・豊かな自然環境と歴史的な財産を守り育て、安全な農産物を生産し、真心と情熱を大切に作る村づくりを行い、これをもてなしの要素として観光客の集客力を高める。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
施設の利用者数	人/年	地域交流センターの施設利用者数(実測調査)	既存の交流施設を利用している地域住民のほか、都市住民(観光客)との交流の場としての利用が考えられるため、基準年度の1割増を目標とする。	8400	H19年度	9200	H24年度
世代間交流関連のイベント参加者数	人/年	公園、地域交流センターなどで開催される世代間交流を目的としたイベント参加数(実測調査)	世代間交流の場が多く整備され、そこを活用したイベント数増加が期待されることから、基準年度の約1割増の参加者数を目標とする。	690	H19年度	870	H24年度
交流・コミュニティ施設の満足度	%	地域交流センターなどコミュニティ施設の満足度	地域交流センターなどが整備され、村のコミュニティ空間が多くなることから、満足度を指標とする。この指標で不満の傾向傾向を示した数値にあたる約30%増を目標値とする。	17	H20年度	47	H24年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針-1 地域住民、都市住民の交流の場の提供</p> <p>現在の地域住民の交流の場である交流施設は施設の老朽化や耐震性能など、安全性に課題がある。そこで、現在行われているコミュニティ活動をはじめ、さらに筑北地域の交流拠点としての機能を有した『麻績村地域交流センター』の建設を行い、地域住民、さらには都市住民との交流空間を目指す。また、役場庁舎前の駐車場と、本施設前駐車場との一体化を図り、移動手段のメインが自動車である地域住民へのアクセス性の向上も図る。</p>	<p>高次都市施設(地域交流センター建設)</p>
<p>整備方針-2 世代間交流の場の提供</p> <p>少子高齢化、自動車社会の進行に伴い、本村も高齢化、人口流出が目立ってきている。これに伴い、風習や伝統などを継承できる人材不足や安心して遊べる場所が少ないことが課題としてあげられる。そこで、世代間交流ができる場所を整備していく。</p> <p>交流施設跡地には、お年寄りから子どもまで、多世代のふれあい・交流ができる場を目指した『多目的広場』を整備する。また、小学校グラウンドとの一体利用を図り、子どもたちが安全で安心して遊べる空間づくり、健康づくり、体力向上の機能も有するものとする。</p> <p>また、村の拠点周辺にある麻績川では、これまでも、「アレチウリの除去作業」など河川美化についてお年寄りから子どもまで取り組んだ経過や、そこで、「親子魚のつかみ取り」など定期的にイベントを実施しているが、日常に関しては、あまり利用されていないのが現状である。そこで、日常でも利用促進するために、散策路や川に近づけるようなアプローチ等を整備し、季節感を感じさせる空間を目指すとともに、子どもからお年寄りまで、世代間交流が可能な空間を整備する。</p>	<p>地域生活基盤施設(既存交流施設跡地多目的広場整備) 地域創造支援事業(既存交流施設撤去) 関連事業(麻績川の花街道づくり推進事業)</p>
<p>整備方針-3 麻績村玄関口である聖高原駅で観光情報を発信する</p> <p>篠ノ井線聖高原駅は、長野自動車道麻績インターチェンジとともに、筑北地域の玄関口のひとつとなっている。そこで、観光情報を提供したり、地域の魅力を紹介するなど、来訪者へのサービス向上を図るために『案内板』を整備する。また、地域の交流の場を目指した空間づくりを行う。</p>	<p>地域生活基盤施設(聖高原駅 駅前広場整備)</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの整備方針の実現にむけて、地域住民が活動の主体となるワークショップ(まちづくり活動推進事業)を開催し、地域住民と行政の協働により事業を実施していく。 ○現在、地域交流センターに近接して、「観光案内所」、「農産物直売所」が建設予定である。この事業はまちづくり交付金の補助のほか、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金で進めてきている。 ○麻績川では、定期的に村のボランティアの方々が河川内のゴミ拾いを実施している。平成22年度から、麻績川の花街道づくり推進事業として「花街道づくり麻績川の会」が取り組んでいる。 ○交流施設跡地で計画している広場での植栽は、村民のボランティアにより行う予定である。 	

聖高原駅周辺地区(長野県麻績村)	面積	17.7 ha	区域	長野県東筑摩郡麻績村 麻 明治町
------------------	----	---------	----	------------------



聖高原駅周辺地区(長野県麻績村) 整備方針概要図

目標	「地域交流と都市住民との交流、世代間交流の場の整備」	代表的な指標	施設の利用者数 (人/年)	8400	(H19年度)	→	9200	(H24年度)
	①地域住民、都市住民の交流の場の提供 【地域交流センター】		イベント参加者数 (人/年)	690	(H19年度)	→	870	(H24年度)
	②世代間交流の場の提供 【交流施設跡地利用、麻績川周辺利用】		コミュニティの満足度 (%)	17	(H20年度)	→	47	(H24年度)
	③麻績村の玄関口で観光情報の発信 【聖高原駅の案内板整備】							

